

HND の TWY に新しいマーキング出現!

1. HNDに追加された地上標識 (マーキング) !

航空機が羽田空港の RWY 05 から離陸する際、連絡橋となっている誘導路 (TWY E、Y) から TWY S、D を通過して TWY D2 や D1 を地上走行して離陸します。その際に通過する誘導路に描かれている地面の標識 (マーキング) が、一部変更になっていることに気が付かれましたか?

以下のように、Google Earth を利用して記録した 2 枚の写真を見比べてみれば、それは一目瞭然です。

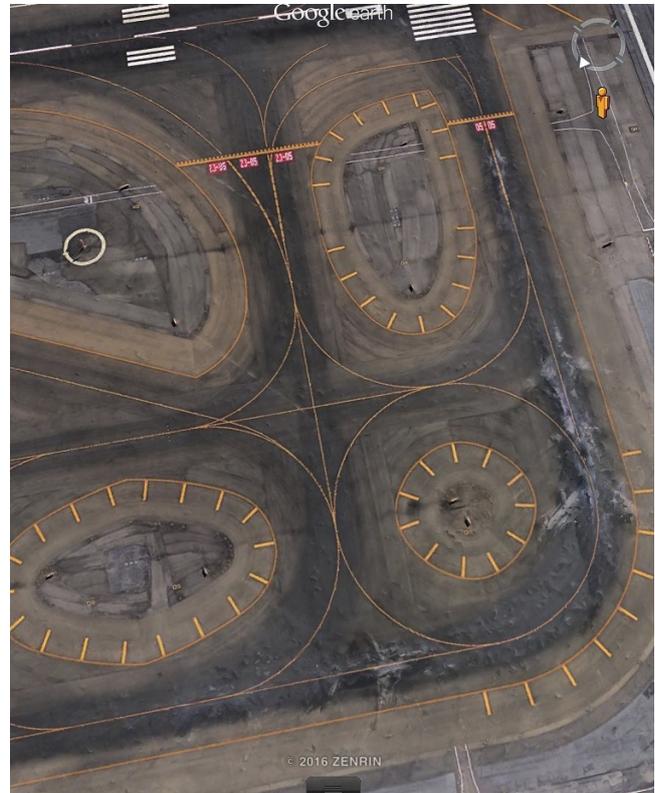
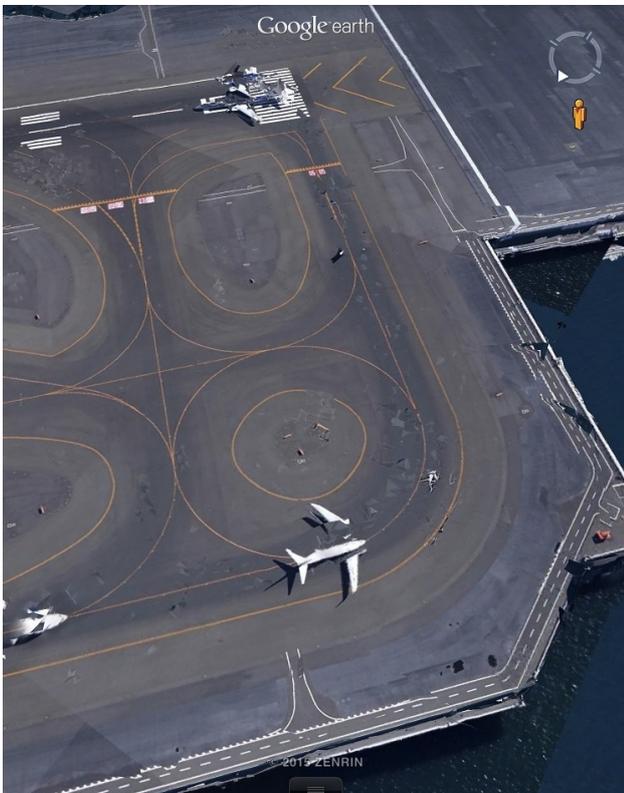


写真 1: 2014 年以前の RWY 05 付近

写真 2: 2015 年以降の RWY 05 付近

そうです、誘導路の端を示す誘導路縁標識のうち、TWY S、D、S1、S2、D1、D2 周辺へのマーキングが一斉に追加されました。これは、通常「ヒゲ」と呼ばれるもので、パイロットの視点から空港管理者である国土交通省航空局に意見具申を行った結果、本来は設置されない箇所であるにも拘らず採用された、パイロットの声を反映したマーキングなのです (注: 誘導路縁標識とは、誘導路端の直線部分と直角の「ヒゲ」部分双方を指します)。

2. なぜ誘導路縁標識の「ヒゲ」が追加されたのか?

この誘導路縁標識が追加されることになった経過についてお話しする前に、RWY 05 新設後に寄せられたパイロット現場からの声について、少々説明する必要があります。

2009年3月、羽田空港の発着容量増加を目的として、4本目の滑走路が運用を開始しました。この新滑走路はその半分強は埋め立てられた地表面に設置されていますが、残り半分弱は橋脚構造の上に設置されています。橋脚構造とした最大の理由は、その部分が多摩川の河口に位置しており、河川の流れを妨げないためです。その結果、橋脚構造の地表部分は全て人工物であるアスファルト構造となっています。

そこに滑走路と誘導路を建設し、誘導路の部分は設置基準に基づいて誘導路標識を塗布して誘導路灯を設置することで、それ以外の部分と視覚的に区別しています。しかし、表面全体が同じアスファルト構造であるため、特に目線の低い航空機（B737、A320 クラス以下）のパイロットから、「どこが誘導路の端なのか分かりにくい」との声が挙がっていました。そこでALPA Japan AGE委員会は、航空安全会議と共同で航空局に対して対応策を講じることを求め、パイロットからのアイデアとして、「誘導路縁標識の『ヒゲ』を塗布してはどうか」と提案をしました。

3. 本来の土木基準とは？

空港を設置する際、空港設置者はICAO Annex 14等に基づいて空港を整備することを条件に、国土交通省航空局が認可をします。その際、日本では具体的な設置要領を記した「空港土木施設の設置基準」に基づいて、空港を作り上げていくのです。その土木基準には、誘導路標識について詳細な記述があり、今回の誘導路縁標識の設置基準について、「誘導路が鋭角（90°未満）に交差している箇所および航空機が逸脱する恐れのある箇所」という記述があり、今回の場所はその基準に合致していませんでした。

そのため、航空局は当初、「誘導路縁標識の『ヒゲ』を塗布する土木基準に合致しない」という理由で難色を示していましたが、代替案に比べて非常に低予算で対策を講じることが出来ること、従来の標識と同色を塗布することから実施に時間がかからないこと等を理由に、ALPA Japan AGE委員会のアイデアが採用されることになりました。

4. 航空局の英断、そして対話の重要性

日本の航空行政は、長年に渡って許認可事業という形を取ってきました。そのため、航空の自由化によって民間航空事業の自由度は大きく向上しましたが、空港の設置管理についてはなかなか従来の方式から脱皮出来ていないのが現状です。そんな中、設置基準よりもパイロットの声を重視したという今回のケースは、現場の声を丁寧に聞いていただいた結果であり、航空局の大きな英断であったことは間違いありません。

本来は、「基準」に基づいて空港作りが適切に実施されることが望ましいことは言うまでもありません。しかし、航空の交通量が飛躍的に伸びている現在、現行の基準がそれに合致していないケースが散見されるのが現状です。そんな中、ALPA Japan AGE委員会は、ICAOのあらゆる会議体においてパイロットの声を反映させる、唯一のオブザーバー団体として活動するIFALPA AGE Committeeの一員として、国際基準の見直しに関する議論を注視しつつ、日本の航空安全の向上に向けて更に声を挙げていきます。

それには、日本の航空現場で日々の安全を堅持するパイロットの「声」が非常に大切です。下記に記した空港アンケートやALPA Japanへの投稿メール、AGE委員メンバーへのダイレクトな声かけなど、手段は問いません。皆様からのメッセージを引き続きお待ちしております！

以上



空港アンケート
Questionnaire click

実施中！